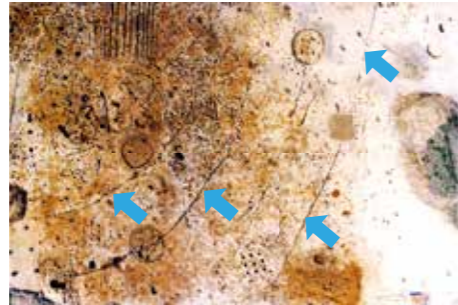


第9回 **南諏訪原遺跡** (松川町)

南諏訪原遺跡は松川町の松川小学校のある丘陵にあり、面積が14,000㎡という大変広い遺跡です。

発掘調査では福島市で最も古い今から12,000年前の縄文時代草創期の土器や、2,500年前の縄文時代晩期の柵で囲まれた集落が見つかりました。柵の中には9棟の竪穴住居と8棟の掘立柱建物があり、竪穴住居は住まいとして、掘立柱建物は倉庫や集会所として使われていたと考えられます。

そのほか、南諏訪原遺跡からは奈良時代から平安時代の集落と水田もあります。



矢印の部分が柵のあと。柵は同心円状に複数あるので何度か集落が拡張されたものと考えられる



縄文時代晩期の竪穴住居は直径約4mで、四角形に配置された柱穴の中央には炉跡があります。



みやはた **じょーもぴあ宮畑** だより 第11号 平成26年3月

☆“じょーもぴあ”とは、「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」の意味です。

発行：じょーもぴあ・遺跡の案内人 編集：じょーもぴあ宮畑だより編集班



あいさつ

市政の執行にあたりましては、「市民主役の市政」を基本に、県都福島市に住む全ての市民の皆様が、未来においても住んで良かったと誇れるまちの実現に向け「みんなが誇れる県都福島」を基本理念とし、市民との対話を重ねて参りたいと考えております。

私たちに、先人の方々が築き上げてこられた歴史や文化、美しい自然と人情あふれる「ふるさと福島」を未来へ引き継いでいく責務があります。

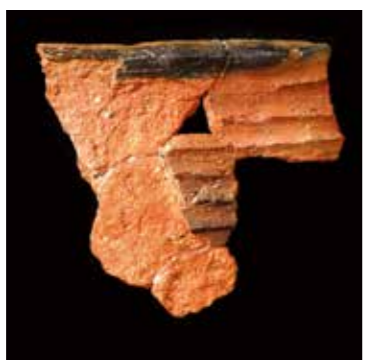
史跡宮畑遺跡につきましては、「じょーもぴあ宮畑」の平成27年夏の全面開園に向けて整備事業を進めるとともに、じょーもぴあ・遺跡の案内人、じょーもぴあ活用推進協議会と連携し、宮畑ミステリー大賞や各種事業の実施などにより、宮畑遺跡とともに「元気な福島」の情報発信を推進して参りますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

福島市長 小林 香

用語解説

「縄文土器」①

今のところ日本で最も古い土器は、大平山元I遺跡（青森県）で見つかったものと言われていますが、福島市内では南諏訪原遺跡で見つかった微隆起線文土器が最も古いと考えられます。



細くのばした粘土の紐を表面に貼付け何段もの平行な文様を描いているのが特徴です。

見つかったのは口縁部分の小破片ですが、福島市の縄文時代の幕開けを示す貴重な証拠ということが出来ます。



宮畑遺跡には「直径90センチメートルの柱」と「47.82パーセントの焼かれた家」の2つの大きな謎があります。

じょーもぴあ活用推進協議会では、平成26年度4月より、宮畑遺跡の2つの大きな謎（ミステリー）を作品テーマにしたおもしろい小説・漫画の募集を開始します。

ミステリー、SF、ファンタジー、ライトノベルなどジャンルは問いません。選考基準は『おもしろさ』です。沢山のご応募をお待ちしています。詳しくは福島市ホームページをご覧ください。

平成27年夏のオープンに向け整備の進む北側多目的活用地区

平成25年度は多目的休憩棟の建築工事を進めており、平成26年5月頃には、多目的休憩棟と炊事棟の供用を開始し、北側多目的活用地区の整備は全て完了となる見込みです。

メインの施設となる体験学習施設は、平成27年夏の完成に向けて、工事が進められています。なお、工事の進捗状況については、福島市ホームページにより、市民の皆様にお伝えしていきます。



子供用遊具や芝生の広場でのびのびと遊べます



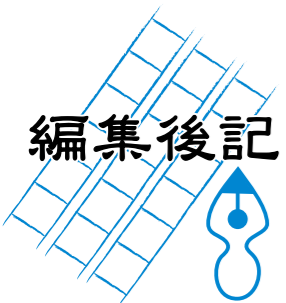
水場と釜場のある炊事棟 整備が進む多目的休憩棟

利用案内

- 名称 宮畑遺跡史跡公園（史跡公園じょーもぴあ宮畑）
- 所在地 福島市岡島字宮畑地内
- 施設 縄文時代の復元建物、子供用の遊具、芝生広場、駐車場、四阿、水飲み場 ※仮設トイレが設置してあります。
- 駐車場・トイレの開錠時間 開錠：午前8時30分、施錠：午後5時30分
- 交通手段 ・東北自動車道福島飯坂ICから車で15分
・福島駅東口③番バス乗り場（月の輪行き）向鎌田バス停より徒歩7分



じょーもぴあ宮畑の現在の環境放射線測定値は平均で0.13~0.15マイクロシーベルト/時間です。



宮畑遺跡が国指定史跡をうけて10年。現在は史跡公園「じょーもぴあ宮畑」として部分開放中です。宮畑遺跡からは、南東北でも例を見ない縄文時代晩期の直径90センチの柱をもつ建物や、そのそばに作られた子供のお墓である埋甕などが見つかっています。また、複式炉とよばれる大型の炉を持つ縄文時代中期の竪穴住居は、その半数近くがわざと燃やされていたことがわかっています。そうした遺構が復元されているじょーもぴあ宮畑は、古代のロマンに触れることができる公園です。あとは建設中の体験学習施設の完成を待つばかりです。

平成25年のじょーもぴあ宮畑は部分開放を受けて、じょーもぴあ宮畑だより第10号で特集したじょーもぴあ宮畑まつりをはじめさまざまな活動が本格化しています。平成27年の全面開園まで、新たなスタートを切った一年でした。

案内ガイド

今年度は宮畑遺跡の部分開放を受けて、じょーもぴあ・遺跡の案内人主催の見学会（9月）、じょーもぴあ宮畑まつり（10月）、宮畑ウォーク（11月）と、合計3回の案内ガイドを実施しています。じょーもぴあ宮畑の本格的な案内ガイドは今年が初めてでしたが、来園者に喜んでいただけるようにそれぞれが工夫をこらし、わかりやすい説明を心がけています。



初めて入った竪穴住居に見学者は興味津々です（見学会）

ウォーキングのあとの見学会でも、竪穴住居は人気でした（宮畑ウォーク）

体験サポート

体験サポートはじょーもぴあ・遺跡の案内人が始まった当初からの活動のひとつです。今年は縄文探検隊や各地区学習センター文化祭のほか、A・O・Z3周年記念イベントなどで縄文体験をサポートしました。



遺跡の案内人の指導のもと、子供たちは楽しく安全に縄文体験しました（縄文探検隊）

勾玉作りの縄文体験は、子供から大人まで夢中で勾玉を磨いています（A・O・Z3周年記念）

研修

平成27年度の開園に向け、今年も数々の研修を実施しました。宮畑遺跡のことだけではなく、外部の講師を招いて広く福島を学びました。また、初の試みとして、この研修の一部をオープンカレッジとして公開で実施しました。



多数の受講者を向かえての講演会は我々も多いに刺激になりました（オープンカレッジ）

今年の活動は、より良い案内ガイドをめざしてガイド内容の検討会から始まりました

宮畑縄文人養成倶楽部

じょーもぴあ活用推進協議会では本格的な縄文体験事業として宮畑縄文人養成倶楽部を開催しました。縄文人の『食』にこだわり、自作した縄文土器を使って鹿肉やクリ、山芋などの入った「縄文鍋」を調理し、試食しました。



粘土を使い実物大の縄文土器を製作し、宮畑縄文まつりで野焼きを実施しました

製作した土器をつかった、竪穴住居内での調理実験の様子です

縄文の文化誌とワークショップ

じょーもぴあ・遺跡の案内人は、昨年引き続き『縄文の文化誌』をテーマに、アンギン編みに取り組んでいます。今年は宮畑遺跡の周辺に自生しているカラムシを使い、植物繊維の採取に挑戦しました。

カラムシの皮を剥いで、竹べらを使い表皮をこそげ落としていくと、半透明で美しく強靱な繊維があらわれてきます。なかなか上手にできませんが、植物から繊維を採取して糸や縄を撚る方法を実際に体験することができました。



緑色の表皮の下には半透明の繊維がかくれています

なれない作業に苦労しながらも、きれいな繊維がとれました

また、昨年に引き続きアンギン編みのワークショップも開催し、19名の参加をいただきました。



遺跡の案内人のサポートで順調に編みあがってきます

初めて体験したアンギン編みは上々の仕上がりでした

平成25年度から、平成27年度の開園時に子供たちが着用できる縄文服作りにも着手しています。



平成9年度に実施された福島工業団地の造成にかかわる発掘調査（3次調査）によって、宮畑遺跡からは縄文時代中期の多数の焼失住居や後期の敷石住居、晩期の巨大な掘立柱建物や埋甕群などが見つかかり、宮畑遺跡は中期から晩期にかけての大規模な集落であることがわかりました。

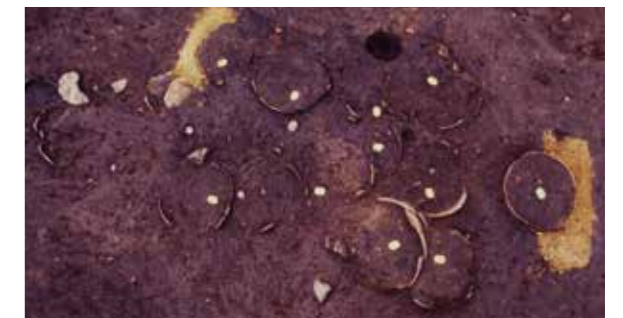
福島市はその成果を受けて、宮畑遺跡の範囲やその詳しい内容を確認するため、平成10年度より確認調査に着手しました。今回は確認調査によって明らかになった宮畑遺跡の晩期の集落について紹介します。

宮畑遺跡の晩期の集落を特徴づけるのは掘立柱建物群の存在です。3次調査でみつかった掘立柱建物のほかにも、広場を囲むように環状に配置された複数の掘立柱建物が見つかりました。



5色の線（赤・黄・白・青・緑）で囲んだ範囲がそれぞれ1棟の建物になります。この部分だけで5棟の建物が重複しています

また、晩期の埋甕は掘立柱建物群の外側に同心円状に分布していることがわかり、埋甕と掘立柱建物は何らかの関連があることがわかりました。



埋甕は子供のお墓と考えられます。一カ所にまとめて埋められているのが宮畑遺跡の特徴です。